

令和４年度 一人一台端末の効果的な活用に向けた取組

～自ら学び、自分の良さに気づき、

互いに認め合う生徒育成のための効果的な ICT の活用～
越前市武生第六中学校

令和４年度の取組

○タブレット活用推進のための校内組織編成と今年度の実践

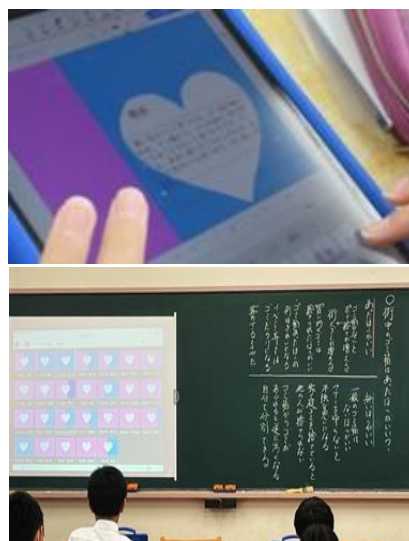
本校では、昨年度より、若手教員を中心とした ICT 活用推進グループを中心に、一人一台端末の効果的な活用方法を研究している。昨年度は「習うより慣れよ」をテーマにタブレットの積極的活用を最優先して取り組み、「調べる」「考えをまとめる」「考えを発表する」場面で有効的に活用することができた。今年度は、タブレットの「双方向的」な活用によって「他者の考えを知り、自分の考えと比較し、学びを深め合える」授業づくりを目指した実践を行った。学期に一回校内 ICT 研修会を実施し、各教科や学年での取組を紹介し合った。研修会では、自分の考えや意見を音声で貼り付け、各自が自分のタブレットで聞き、比較し、深める授業を可能にした活用例や、YouTube を作成して課題に対する考察を表現させる授業の事例が好評であった。また、道徳教育推進教諭が中心となり、「道徳における有効なタブレットの活用法」という課題を全職員で共有し、年間を通じチームとして研究を行った。授業中、各自の心情がひと目で、リアルタイムに読み取れるよう工夫した「心情メーター」を全校で共有、活用したことで、多角的・多面的に思考を深める授業づくりを実現することができた。

○道徳の授業実践例

今年度は生徒の自己肯定感や実践意欲の向上をねらい、学級、学年、全校、様々な単位の学校行事と道徳の授業を関連づけて実践することで、自分の良さに気づく場面、互いに認め合える場面を増やす実践を行った。また、授業では前述にもあるように、「心情メーター」を全校で共有、活用し、多面的・多角的に思考を深める授業づくり推進した。

【２年生】色を活用した「心情メーター」の実践

街中にゴミ箱が「あった方がいい」か「無い方がいい」かについて議論する場面で「心情メーター」（右写真上）を活用した。紫色があった方がよい、青色はなかった方よいを表しており、自分の心の中を「％」で表せるようにした。また、中心部分には、自分の「心情メーター」がどの程度の割合なのか、その理由について記入させた。生徒は発表の際にも自分の考えを堂々と言うことができ、聞く側にとっても、発表者の考えをスクリーン上で見ながら聞くことができるため、他者の考えを「認め合う」ために有効であった。さらに、授業中いつでも心情メーターの「％」を変更すること

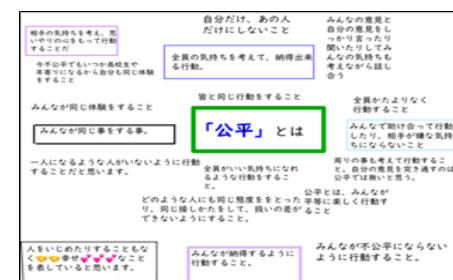
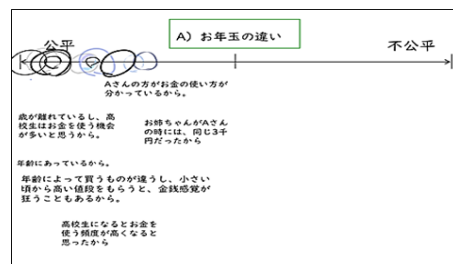


ができ、その様子はスクリーンに投影されているため、クラスメイトの心情の変化をリアルタイムで見ることができた。（前ページ右写真下）

【1年生】級友の意見を同時に確認できる「クラスページの活用」の実践

「公平とは何か」を考える授業で3つの場面を想定して議論した。横軸の両端を「公平」「不公平」とし、自分の考えがどちら寄りにあるかを○印で表した。理由も表示しクラス全体の意見の状況が瞬時に分かる状況をつくったことで、生徒は他の意見に共感し、互いの意見を認め合いながら議論を深めることができていた。（右写真上）

また、授業の終末で「公平」とはどのように行動することなのかを考えてクラスページに書き込んだ。級友の意見を読んだり、なるほどと共感し意見を交わしたりすることで、さらに考えを深めることができた。



○総合的な学習の時間の実践例

【1年生】ふるさと新聞や武生第六中学校紹介動画を作成した。

【2年生】SDGsをテーマに校外学習の見学地を調べ、プレゼンテーションをすることで行き先を選定した。（右写真）

【3年生】修学旅行先の観光地ポスターを、自身の思い出をもとにして作成した。



○生徒会中心で行うタブレットを活用した生徒会活動の実践

生徒会執行部に、今年度新たに「広報部」を組織し、生徒会新聞を毎月発行したり、生徒への動画を配信したりした。また、生徒会主催のお楽しみ会や学校祭などで、クイズアプリをもとに作成したゲームでイベント（右写真）を開催した。校則改正の意見や学校への要望を聞くアンケート調査なども、タブレットで実施した。



2. 取り組みの成果

全教員が、担当教科の授業だけでなく道徳や総合的な学習の時間、特別活動など全ての学校生活の中で、自主的で深い学びに効果的なICT活用を工夫し実践してきた。その結果、全国学調やSASAの質問紙における「主体的に取り組む」「自己肯定感」に関する項目では数値が好転した。また、声に出して自分の意見や考えを表現することが苦手な生徒も、タブレットに記入することで他者に伝えやすい状況をつくることで、多様な考えを共有し、互いを認めながら学びを深めることに繋がっていると考えられる。